

(別紙1)

総括研究報告書

課題番号	2023C-4				
研究開発課題名	NICUにおける食品ロス低減の取り組み				
分類※	<input type="checkbox"/> ①	<input type="checkbox"/> ②	<input type="checkbox"/> ③	<input type="checkbox"/> ④	<input type="checkbox"/> ⑤ <input type="checkbox"/> ⑥ <input checked="" type="checkbox"/> ⑦
区分	<input type="checkbox"/> A	<input type="checkbox"/> B	<input checked="" type="checkbox"/> C	<input type="checkbox"/> E	<input type="checkbox"/> S
主任研究者	所属	新生児科			
	役職	医長			
	氏名	丸山秀彦			
実施期間	2023年 4月 1日 ~ 2024年 3月 31日				

※分類は下記①～⑦より選択

- ① 日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究
- ② 診断、治療及び予防法の開発に関する研究
- ③ 発症機序や病態の解明等を行う研究
- ④ 診断や治療のための基準の開発等に関する研究
- ⑤ 患児・者のQOL向上に結びつく研究
- ⑥ 研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究
(プロトコル作成のフェージビリティ研究)
- ⑦ 政策提言に結びつく研究

成果の概要

我々は、ミルクを廃棄しているが、その量を把握していないのが現状である。まずは、その廃棄量を把握することを目的とする。同時に、安定した医療をすることとの両立を考慮しつつ、廃棄量減少の可能性を模索し、実行に移すことも目的とする。

ミルクの廃棄量の把握がなされ、その減量に成功すれば、当初の成果として期待される。更に、その成果をまとめ、学会発表・論文発表することで、次のような副次的な効果が期待される。

- A) 温暖化対策の1つとして、ミルク廃棄量を取り上げたが、今後は各個人が多方面にわたり、改善点を見つけ出すきっかけとなりうる。
- B) 恐らく全国のNICUで、ミルク廃棄は行われているため、各地での取り組みのきっかけとなりうる。

ミルク廃棄量のデータ収集を前方視的に開始し、同時に1年前に遡ってのデータ収集も行った。それによると、1日4-6Lのミルク廃棄量が認められた。それに基づき、目標を1日2L未満とした。

廃棄量が多い理由について検討したところ、(1)ミルクオーダー量過剰、(2)ミルク消費量過少、(3)予備ミルク過剰が考えられた。

(1) ミルクオーダー量過剰

(ア)重症系カルテシステムでのミルクオーダーが病院カルテシステムと連動していない関係で、医師の病院カルテシステムへの入力が遅れがちとなる。そのため、余裕を持ったミルク量でのオーダーとなるため、余分が出やすい。また、手術等の理由により、欠食状態になったときに、ミルクオーダーを中止しないと、そのミルクは全て廃棄になってしまう。

(2) ミルク消費量過少

(ア)母乳分泌が良好の場合、ミルク消費量が減るので、ミルク廃棄量が増える可能性がある。

(3) 予備ミルク過剰

(ア)急な不足に備えて用意されている、予備ミルクが多いことが考えられた。

上記 1-2 に対しては、ミルク廃棄量の推移を NICU スタッフに周知する際に、適切なミルクオーダーを定期的に喚起した。予備ミルクに関しては、段階的に減量していった；1.5→1.1→0.7L/日。この予備ミルク減量により、8044 円/月のコスト削減には結びついた。しかし、依然として、廃棄量は 1 日 4-6L を推移している状況である。